

リン酸オセルタミビルの服用後に死亡した17歳以上の成人症例（平成18年1月20日現在）

○ リン酸オセルタミビルとの因果関係が否定できないとされた事例

No.	年代/性別	報告年	事象	1日用量/投与(処方)期間	併用薬
1	80代/男性	2004年	肝障害 肺障害 腎障害	150mg/5日間	ベシル酸アムロジピン ロサルタンカリウム テプレノン
<p>高血圧、完全房室ブロック、慢性肝炎、胃炎、不眠症及び軽度の腎障害の患者。38℃の発熱があり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。服用5日目、全身倦怠感が表れ入院した。肝臓・腎臓障害、低酸素血症、呼吸苦、及び全身浮腫が出現し、入院してから約3週間後、腎不全及び高窒素血症により死亡。</p>					
2	50代/男性	2005年	中毒性表皮壊死症	150mg/3日間	総合感冒剤 セフジニル 葛根湯
<p>良性前立腺肥大症の患者。頭痛、関節痛、全身倦怠、発熱及び咽頭痛があり、受診したところ、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方（併用薬は上記のとおり）。発熱、咽頭痛が続き、2日後の午後には咽頭痛が強くなった。頸部に紅斑が表れ、入院した。中毒性表皮壊死症が発現し、次の日以降、全身に紅斑が拡大し、びらん・水疱になったため、皮膚科で3日間ステロイドパルスを実施した。その2日後、ショック状態となり、呼吸不全となった。入院10日目、治療に反応せず死亡。</p>					

○ リン酸オセルタミビルとの因果関係が否定的とされた事例

No.	年代/性別	報告年	事象	1日用量/投与(処方)期間	併用薬
1	60代/男性	2001年	多臓器不全	150mg/1日間	アトルバスタチンカルシウム水和物 セフポドキシムプロキセチル ロキソプロフェンナトリウム 総合感冒剤 アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン
<p>約35年前にクローン病の手術を施行。高脂血症の患者。インフルエンザの疑いで、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方（併用薬は上記のとおり）。その日の深夜、救急で搬送、病院に到着と同時に心肺停止。多臓器不全で死亡。</p>					
2	70代/男性	2001年	急性肝障害 急性腎不全	150mg/6日間	クラリスロマイシン 塩酸アンブロキシソール 塩酸チアラミド トロキシピド ロサルタンカリウム フロセミド プレドニゾロン 硝酸イソソルビド ツロブテロール ファモチジン プロピオン酸フルチカゾン テオフィリン

<p>肺結核（左上葉切除）、虫垂炎及び気管支ぜん息の既往歴あり。喘息重積発作にて入院。低酸素血症による肝障害、高尿酸血症を併発。約3ヶ月後退院し、その4日後にインフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。服用終了後4日目に、肝機能異常、腎機能異常等が認められ、入院。その翌日、急性腎不全となり、血漿交換、透析を開始。リン酸オセルタミビルの服用終了から約2週間後、肝不全及び腎不全で死亡。</p>					
3	50代/男性	2001年	出血性十二指腸潰瘍 肝機能障害 下痢（症）	75mg/1日間	アジスロマイシン水和物 塩酸ミノサイクリン
<p>高血圧症の既往歴あり。慢性腎不全、糖尿病、糖尿病性網膜症、及び頸椎後縦靭帯骨化症で入院。透析を行うが、全身状態は極めて不良であった。入院から約6週間後、インフルエンザと診断。次の日の夕方、リン酸オセルタミビル75mgを1回のみ服用（併用薬は上記のとおり）。服用の数日後、下痢症状及び全身倦怠感が出現し、肝機能障害が出現。下血を繰り返し尿毒症症状が悪化。その3日後、出血性十二指腸潰瘍で死亡。</p>					
4	50代/男性	2002年	急性心不全	150mg/1日間	アセトアミノフェン スルピリン <i>d</i> l-マレイン酸クロルフェニラミン
<p>午前中、インフルエンザ様症状が出ていたため、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方（併用薬は上記のとおり）。夕方、急性心不全が発現、救急で搬送されるが、死亡。なお、担当医によると、リン酸オセルタミビルを服用したか否かは不明。担当医の協力が得られず、その詳細は調査不能。</p>					
5	30代/男性	2002年	心肺停止	150mg/1日間	ロキソプロフェンナトリウム アスピリン・ヒドロタルサイト セフジニル 総合感冒剤 健胃・消化剤 ホスホマイシンカルシウム ブドウ糖

					ビタミン製剤
<p>十二指腸潰瘍の既往歴あり。インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を処方、正午頃服用して就寝（併用薬は上記のとおり）。その2時間後、呼吸していないことに気づき、心肺蘇生を行いながら救急で搬送。搬送から約4時間後、うっ血性心不全で死亡。剖検の結果、両肺のうっ血水腫が著明であり、直接の死因になったと考えられるとのこと。</p>					
6	60代/男性	2002年	呼吸困難	150mg/5日間	塩酸セフカペンピボキシル セラペプターゼ ロキソプロフェンナトリウム 塩酸セフォゾプラン
<p>インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。服用開始後、4日目の午後になっても解熱せず、塩酸セフォゾプランを服用。次の日、解熱し、自覚症状（悪寒、間接痛）も改善。その次の日の朝、呼吸困難が発現し、救急車内で心・呼吸が停止。病院にて蘇生したが、その日の午後、多臓器不全で死亡。</p>					
7	30代/男性	2003年	突然死	75mg/1日間	鎮咳配合剤 アモキシシリン
<p>インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル 75mg を夕食後服用し（併用薬は上記のとおり）、そのまま就寝するが、次の日の朝、死亡（推定死亡時刻は深夜0時頃）。</p>					
8	70代/男性	2003年	多臓器不全	150mg/3日間	セフトリアキソンナトリウム クラリスロマイシン テオフィリン モンテルカストナトリウム ツロブテロール スルバクタムナトリウム・セフォペラゾンナトリウム

					塩酸ミノサイクリン コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム フロセミド
肺結核の既往歴あり。境界型糖尿病の患者。インフルエンザ陰性と診断されたが、次の日、症状改善なく、リン酸オセルタミビル 150mg/日を処方（その後の経過を含め、併用薬は上記のとおり）。翌日、脱力感があり、体が動かなくなつて、入院。肺炎が疑われ、抗生物質の投与を受けるが、症状が増悪。その次の日、急性肺炎で死亡。					
9	80代/女性	2004年	肺線維症	150mg/4日間（処方）	セフジトレンピボキシル 小柴胡湯 葛根湯 総合感冒剤
脳梗塞の既往歴あり。アルツハイマーの患者。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を4日分処方（併用薬は上記のとおり）。その5日後、肺線維症を発症。死亡日時は不明。担当医の協力が得られず、その詳細は調査不能。					
10	30代/男性	2004年	心肺停止	150mg/1日間	ロキソプロフェンナトリウム 塩化リゾチーム ソファルコン スルピリン
インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を服用（併用薬は上記のとおり）。深夜、救急での病院搬入時には、すでに心肺停止状態。心肺蘇生等を行うが、死亡。剖検の結果、肺断面では斑状の出血巣が散在し、食道下部粘膜等に出血傾向が確認。主治医によると、リン酸オセルタミビル服用前日からウイルス性肺炎に罹患していたものと考えられるとのこと。					
11	60代/男性	2004年	ショック	150mg/1日間	アセトアミノフェン 塩酸セフカペンピボキシル レバミピド

胃癌の既往歴があり、10年前に胃全摘出術及び脾摘出術を施行。インフルエンザが疑われ、リン酸オセルタミビル 150mg/日を処方（併用薬は上記のとおり）。次の日の朝、全身状態が悪化（血圧 70、ショック状態）して ICU に入室。入室 3 日目も改善傾向が見られず、その次の日、感染性ショック及び多臓器不全で死亡。剖検の結果、両側腸腰筋肉出血が確認。咽頭スワブ検体による溶連菌抗原検査結果は陽性であるが、皮膚所見に乏しく血液培養の結果は陰性。

12	70 代/男性	2004 年	白血球減少症	150mg/2 日間	アルファカルシドール レボチロキシナトリウム 酸化マグネシウム ダイオウエキス ポリカルボフィルカルシウム ラクトミン アルジオキサ ビオヂアスターゼ 2000 配合剤 ファモチジン オクトチアミン・B2・B6・B12 配合剤 電解質輸液 生理食塩液 ロキソプロフェンナトリウム テプレノン
----	---------	--------	--------	------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

統合失調症、慢性膵炎、慢性糸球体腎炎、糖尿病、胃炎及び甲状腺機能低下症のため、入院治療中。インフルエンザが疑われ、リン酸オセルタミビル 150mg/日を服用（併用薬は上記のとおり）。次の日の夜、状態急変。その翌日の朝、白血球減少症、肺炎等が確認され、その後、呼吸困難を発現。さらに次の日、重症肺炎で死亡。

13	80代/女性	2004年	肝障害	150mg/3日間	セフトレキシム セフトリアキソン ハロペリドール 塩酸プロパフェノン スピロラクソン フロセミド 塩酸エペリゾン エチゾラム ゾピクロン 酸化マグネシウム センノシド ジゴキシン ファモチジン 酪酸菌製剤
完全房室ブロックの既往歴あり。肺炎及び心不全のため、入院治療中。インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日の服用を開始（併用薬は上記のとおり）。服用3日目、血圧低下及び肝機能障害が発現したため、朝リン酸オセルタミビル 75mg を服用後、服用を中止。次の日、呼吸不全及び肝不全で死亡。剖検の結果、うっ血性心不全及び中心静脈域のうっ血を伴う壊死を確認。					
14	10代/男性	2004年	異常行動	75mg/1日間	塩酸アマンタジン アモキシシリン セラペプターゼ 塩酸アンブロキシソール 耐性乳酸菌製剤 ソファルコン

インフルエンザの流行のため、塩酸アマンタジン、抗生物質等を処方。翌日朝、塩酸アマンタジン等を服用したが、発熱等のため再度受診し、インフルエンザ A 型と診断。塩酸アマンタジンの処方がリン酸オセルタミビルに切り替えられ、本剤 75mg を昼食後服用し、昼寝。その約 2 時間後、自宅を飛び出し、線路等を横断して、トラックにひかれ死亡。胸部外傷によるショック死と診断。					
15	70 代/男性	2005 年	劇症肝炎	150mg/4 日間	クラリスロマイシン 桜皮エキス・リン酸コデイン 塩酸ブロムヘキシン 鎮咳配合剤 アセトアミノフェン 硫酸イソプロテレノール・臭化メチルア トロピン配合剤 電解質輸液 リン酸ヒドロコルチゾンナトリウム 硫酸セフピロム
インフルエンザ及び気管支肺炎と診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。その 5 日後、救急で搬送され、劇症肝炎と診断。約 3 週間後、劇症肝炎及び出血で死亡。					
16	20 代/男性	2005 年	死亡	75mg 又は 150mg/1 日間	なし
インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビルを服用し、その日のうちに死亡。剖検の結果、脊髄の浮腫、及び間質性肺炎像（びまん性）が確認。担当医の協力が得られず、その詳細は評価不能。					

17	60代/男性	2005年	心肺停止	150mg/3日間	クロルプロマジン・プロメタジン配合剤 プロペリシアジン フルニトラゼパム センノシド マレイン酸レボメプロマジン 塩酸モサプラミン 塩酸ビペリデン 塩酸トリヘキシフェニジル ハロペリドール ゾテピン
B型肝炎の既往歴あり。統合失調症で入院治療中。第一度房室ブロックを合併。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。服用3日目の夕食後、本剤を服用してから呼吸状態が異常になり、続いて呼吸停止、心臓停止。約2時間後、心肺停止で死亡。					
18	20代/女性	2005年	突然死	150mg/2日間	なし
アトピー性皮膚炎の患者。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を処方。次の日の朝、呼吸停止の状態で見送られ、救急で搬送。CT検査では、低酸素脳症で浮腫が激しく、皮髄境界はみられる状態ではなかった。その次の日、心肺停止で死亡。					
19	50代/男性	2005年	死亡（喘息死）	75mg/1日間	塩酸チアラミド カルベジロール フレロキサシン キタサマイシン

					セラペプターゼ 塩酸トリメトキノール ファモチジン プレドニゾロン
痛風の既往歴あり。喘息、高血圧、気管支炎、冠動脈不全の治療中。インフルエンザ A 型と診断され、リン酸オセルタミビルを処方（併用薬は上記のとおり）。当日の夜、リン酸オセルタミビル 75mg を服用してから約 1 時間後、呼吸が苦しくなったため救急で搬送。救急車到着時、すでに心肺停止状態にあり、救急外来到着約 1 時間後、心肺停止で死亡。剖検の結果、気道発赤、心臓の冠動脈硬化症を確認。					
20	90 代/女性	2005 年	突然死	75mg/2 日間	アミノフィリン 塩酸ブロムヘキシン 塩酸セフェピム リン酸デキサメタゾンナトリウム
甲状腺原発悪性リンパ腫術を 6 年前に施行。うっ血性心不全の患者。インフルエンザ B 型と診断され、その日の夕方、リン酸オセルタミビル 75mg を服用し、入院（併用薬は上記のとおり）。翌日の朝、本剤 75mg を服用し、夕方の回診時には、呼吸苦及び喘鳴が改善。約 1 時間後、再度の回診時、すでに呼吸が停止しており、死亡。					
21	90 代/男性	2005 年	胃腸出血	75mg/1 日間	ロキソプロフェンナトリウム 塩酸チクロピジン センノシド ニフェジピン
慢性腎不全、脳梗塞、便秘、及び高血圧の患者。血液透析を約 10 年前から施行。インフルエンザ A 型と診断され、入院。当日の夕方リン酸オセルタミビル 75mg を服用（併用薬は上記のとおり）。入院 4 日目の夕方、嘔吐等あり。その 3 日後の夜以降、下血が続き、深夜、呼吸状態が悪化し、血圧低下、心拍数低下となり、次の日の早朝、死亡を確認。					

22	80代/女性	2005年	播種性血管内凝固	150mg/5日間	ベシル酸アムロジピン フェニトインナトリウム 硝酸イソソルビド アセトアミノフェン アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン ピペラシリンナトリウム
脳梗塞及びてんかんの患者。肺炎により入院中で、長期臥床状態。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を服用開始（併用薬は上記のとおり）。6日後に解熱したが、同時に皮下出血斑及び口腔内粘膜から出血。その3日後、播種性血管内凝固と診断。その5日後に死亡。					
23	70代/男性	2005年	突然死	75mg/1日間	ジクロフェナクナトリウム ナフトピジル
破傷風（その後遺症による下肢変形、下肢麻痺）の既往歴あり。前立腺肥大症の患者。朝、発熱があり、ジクロフェナクナトリウム座剤を投与。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル 75mg を昼すぎに服用（併用薬は上記のとおり）。その2時間半後、解熱したが、夕方、心肺停止状態で発見。回復せず、死亡。					
24	90代/女性	2005年	白血球数減少 血小板数減少	150mg/3日間	なし
高血圧及び胃炎の患者。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を服用開始。服用3日目、血小板数減少、白血球数減少が発現し、死亡。担当医の協力が得られず、その詳細は調査不能。					
25	30代/男性	2005年	突然死	150mg/2日間	ヒトインスリン（遺伝子組換え）
糖尿病の既往あり。糖尿病性昏睡のため入院。インスリンと補液で全身状態改善。入院から3日後、インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル 150mg/日を服用開始。翌朝、解熱し、血糖もかなり改善。夕食後、突然心肺停止となり、死亡。					

26	50代/女性	2006年	死亡	75mg または 150mg/2日間	リセドロン酸ナトリウム水和物 カルボシステイン 酸化マグネシウム インドメタシン 塩化リゾチーム 酪酸金配合剤 塩酸メキシレチン 硝酸ミコナゾール 硫酸ゲンタマイシン
<p>筋強直性ジストロフィーの患者。心室性不整脈、慢性気管支炎、心弁膜疾患、心不全、活動状態低下、骨粗鬆症の治療中。インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル 75mg または 150mg/日の服用開始（併用薬は上記のとおり）。翌日解熱し、インフルエンザは軽快したが、その次の日の朝、死亡を確認。担当医によると、筋強直性ジストロフィー及びインフルエンザでの死亡とされた。</p>					